

第 131 回 素粒子原子核研究所運営会議議事要旨

日 時 令和 4 年 11 月 24 日 (木) 13 : 30 ~

場 所 管理棟大会議室 + ウェブ (Zoom) 併用

出 席 者

- 【構成員】** 花垣議長、浅井委員、飯嶋委員、五十嵐委員、後田委員、宇野委員、大西委員、荻津委員、川越委員、久世委員、小松原委員、塩澤委員、瀬戸委員、高橋委員、田島委員、田村委員、飛山委員、永江委員、中野委員、中平委員、中村哲委員、中村隆司委員、橋本委員、松本委員、三原委員、(欠席者 市川委員)
- 【オブザーバー】** 齊藤素粒子原子核研究所長、足立理事、内丸理事、岡田理事、幅理事、住吉監事、波戸共通基盤研究施設長
- 【管理局等】** 五味田総務部長、永木研究協力部長、外山施設部長、幸田参事役、櫻井人事労務課長、岡田研究協力課長、吉田共同利用係長 (代理 : 島根共同利用支援室長)

配付資料

1. 第 130 回素粒子原子核研究所運営会議議事要録
2. 人事異動
3. 研究員の選考結果について
4. 博士研究員の選考結果について
5. 協定・覚書等一覧 (国内機関)
6. 協定・覚書等一覧 (外国機関)
7. 次期副所長の選考について
8. 教員公募 (素核研・教授 1 名・和光原子核科学センター)
9. 教員公募 (素核研・准教授 1 名・理論センター)
10. 教員公募 (素核研・准教授 1 名・CMB)
11. 教員公募 (素核研・助教 1 名・Belle)
12. 教員公募 (素核研・助教 1 名・ハドロン)
13. 所長等の任期規程の改正予定について

議 事

オープンセッション

- (1) 所長報告
- (2) サイエンストーク

田島 治 京都大学教授から、「CMB++」と題して、サイエンストークが行われた。

【 1 】 第 130 回議事要録の確認について

花垣議長から、資料 1 の議事要録については事前に確認済みであり、確定版を配付している旨の説明があった。

【2】 所長等報告

(1) 人事異動

齊藤所長から、資料2に基づき報告があった。

<主な意見、質疑応答>

- ・資料中の「異動区分」において「採用、転勤、命」と「採用、転勤」は何が異なるのか。

→J-PARCセンターの構成員になる場合に「命」が付く。

(2) 研究員の選考結果について

齊藤所長から、資料3に基づき報告があった。

(3) 博士研究員の選考結果について

齊藤所長から、資料4に基づき報告があった。

(4) 各プロジェクト報告

1. SuperKEKB 報告

飛山委員から、SuperKEKB の状況について報告があった。

2. Belle と BelleII 報告

後田委員から、Belle と BelleII の状況について報告があった。

3. J-PARC 報告

小松原委員から、J-PARC の状況について報告があった。

【3】 審議

(1) 次期副所長の選考について

花垣議長から、資料7に基づき説明があり、審議の結果、資料のとおり了承された。

<主な意見、質疑応答>

- ・「副所長1名の任期満了に伴う後任者の選考」とのことだが、一方で、後任者の任期が通常と異なり1年間となっている理由は何か。

→本件は、定年退職に伴う後任選出であるため。

(2) 教員公募（素核研・教授1名・和光原子核科学センター）

齊藤所長から、資料8に基づき説明があり、審議の結果、資料のとおり了承された。併せて、人事委員会についても提案のとおり了承された。

(3) 教員公募（素核研・准教授1名・理論センター）

齊藤所長から、資料9に基づき説明があり、審議の結果、資料のとおり了承された。併せて、人事委員会についても提案のとおり了承された。

<主な意見、質疑応答>

- ・近年、原子核・ハドロン物理に関する理論を専門とする人材が減っているように思うが、今回はフレーバー物理に関する理論人材を優先するということか。

→現場としては、将来的にご指摘の分野も重要であると認識しているが、今回は本件提案をすること。

→なお、先日の人事で原子核・ハドロン物理に関する理論を専門とする人材を雇用している。

- ・人事委員について、内部委員と外部委員の比は通常どの程度か。

→半々。

(4) 教員公募（素核研・准教授1名・CMB）

齊藤所長から、資料10に基づき説明があり、審議の結果、資料のとおり了承された。併せて、人事委員会についても提案のとおり了承された。

(5) 教員公募（素核研・助教1名・Belle）

齊藤所長から、資料11に基づき説明があり、審議の結果、資料のとおり了承された。併せて、人事委員会についても提案のとおり了承された。

(6) 教員公募（素核研・助教1名・ハドロン）

齊藤所長から、資料12に基づき説明があり、審議の結果、資料のとおり了承された。併せて、人事委員会についても提案のとおり了承された。

<主な意見、質疑応答>

・ハドロングループは色々な実験グループが混ざっているが、COMETの優先度が高いと判断された経緯は何か。

→ハドロン推進会議において、今後J-PARCのハドロン実験が世界と伍していくためには、本件公募が戦略的に必要と判断されたため。

・素核研において、どのような過程でその必要性の判断をしているのか。

→責任者会議の出席者が人事提案をすることができ同会議で議論される。現在、ハドロングループ内の各実験グループの長も出席者である。

・准教授が他機関に移籍した分を補填するという意味合いもあるのか。というのもこのような補填には、グループの既得権益が守られるという側面もありつつ、他方で、グループの活動を継続するという側面ももちろんあると思うため。

→お考えのとおり。バランスが重要だと考えている。

→人事公募は、転出があった場合に自動的に決まるわけではなく、あくまで責任者会議で審議された結果である。

【4】その他

・所長等の任期規程の改正予定について

花垣議長から、資料13に基づき説明があり、意見交換が行われた。本件については今回出された意見を踏まえた見直し案を作成し、次回の運営会議で諮ることとした。

【5】閉会

次回の素粒子原子核研究所運営会議は令和5年1月18日10時00分から開催するとの案内があり、閉会した。

以上